

展示会で訪れるニュルンベルクで、少し歴史を歩く

— ナチス党大会跡地とニュルンベルク裁判の舞台を訪ねて —

ドイツ・ニュルンベルクはさまざまな国際展示会が開催される都市として、日本からも多くの出展者や来場者がこの街を訪れています。しかしこの街にはナチスの巨大な政治演出の舞台となった場所と、その指導者たちが裁かれた場所という、世界史の転換点となった場所が残っていることをご存じでしょうか。

展示会期間中はスケジュールも忙しく、会場とホテルの往復だけで滞在が終わってしまうことも少なくないと思います。しかし、もし少し時間があれば、この街のもう一つの顔——世界史の舞台となった場所を訪れてみてはいかがでしょうか。

私自身、今回ニュルンベルクを訪れる機会に、ナチス時代の歴史に関わる場所をいくつか歩いてみました。きっかけは、機内で映画「ニュルンベルク裁判(Nuremberg)」を観たことでした。ニュルンベルク裁判をテーマにした作品で、この街の名前が持つ歴史的な意味を改めて考える機会になりました。



ニュルンベルクの旧市街地を望む

ここでは、展示やガイドの方から学んだこと、そして歩いて得た情報などを元に歴史が残された街、ニュルンベルクをご紹介します。

● ナチス党大会跡地 (Nazi Party Rally Grounds)

ニュルンベルク市内南東部にはナチス党大会跡地(Nazi Party Rally Grounds)と呼ばれる広大なエリアがあります。

1930年代、アドルフ・ヒトラーはニュルンベルクをナチス党大会の都市(City of the Party Rallies)として位置づけ、この地に国家の力と統一を象徴する巨大建築群が計画されます。

ナチス党大会跡地は一つの巨大な公園のようなエリア、でツェッペリン広場、ライトポルトハイン、コンGRESS・ホール、グローセ・シュトラッセ大通りなどの施設が点在しています。そこからさらに南にニュルンベルクメッセがあります。



ヒトラーが演説をした広場

ライトポルトハイン

演壇部分が残るライトポルトハインの広大な広場では何十万人規模の群衆を前にアドルフ・ヒトラーが演説を行いました。現在は静かな広場になっていますが、実際にその場所に立つと当時の巨大政治集会のスケールを想像せずにはいられません。

党大会の軍事パレードのメインストリートとして建設されたグローセ・シュトラッセ大通りも、当時に舗装されたままに残

され、その広大さに圧倒されます。巨大な建築と演出によって、ナチス国家の力を誇示する舞台が作られました。

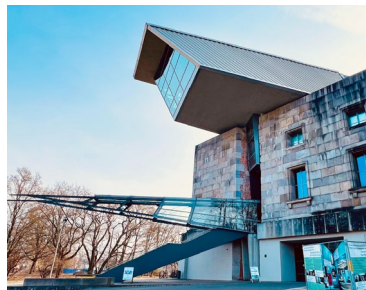
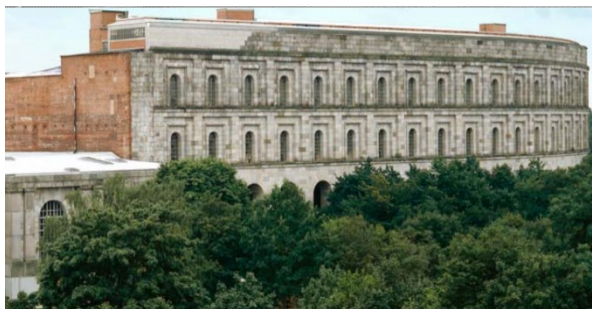


ナチス党大会の軍事パレードを行うためのメインストリートとして建設された巨大な舗装道路

グローセ・シュトラッセ大通り

こうした巨大建築が今も残されていることに、驚く人も多いかもかもしれません。ドイツでは、歴史を消してしまうのではなく記憶し続けることが民主主義を守るという考え方が大切にされています。

kongress・ホール内部に設けられた資料館は、ナチス時代の建築物に現代建築の鋭いガラス構造が斜めに突き刺さるようなデザインになっています。歴史を批判的に見つめるというメッセージが建築そのものに込められているそうです。



ナチス時代の kongress・ホール (左)
kongress・ホールに斜めに突き刺さる現代建築部分 (右)

地図にもあるようにこれらの施設は同じエリアに集まっており、ニュルンベルクメッセからも車で 10 分ほどの距離にあります。ただし敷地は非常に広大で、徒歩ですべてを回るのには難しい広さです。



● ニュルンベルク裁判 (Nuremberg Trials)

国際裁判の舞台となったのが、ニュルンベルク司法宮殿(Palace of Justice)の第 600 法廷です。

1945 年から 1946 年にかけて行われたこの裁判では、ナチス政権の主要指導者 24 名が起訴され、12 名に死刑判決が下されました。

この裁判で特に重要だったのは、「国家ではなく個人が責任を負う」という原則です。また、「命令に従っただけでは免責にならない」という考え方も示されました。

“Individuals are responsible for their actions under international law.”

これらの原則は後に「ニュルンベルク原則(Nuremberg Principles)」と呼ばれ、現在の国際法の基礎の一つとなっています。戦争犯罪や人道に対する罪という概念を国際社会に示したことは、国際秩序の大きな出発点となりました。



この場所はニュルンベルク裁判記念館として一般に公開されていて、展示も非常に充実しています。ニュルンベルグメッセから地下鉄を利用して約 20 分、多くの方が利用する中央駅からも地下鉄かトラムで数分とアクセスしやすい場所にあります。

ニュルンベルク司法宮殿 (Palace of Justice)

●ニュルンベルク裁判と同時通訳

ニュルンベルク裁判には、もう一つ興味深い歴史があります。

それは同時通訳システムが初めて本格的に導入された国際裁判だったということです。

裁判では、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語の 4 つの言語が使用されました。このため IBM が開発した同時通訳システムが導入され、通訳者がヘッドフォンとマイクを使いほぼリアルタイムで翻訳を行いました。

国際会議の現場に関わる仕事をしている立場として、同時通訳システムの原点がニュルンベルク裁判にあることはとても興味深く感じました。



写真引用 : <https://museums.nuernberg.de/>

●600 法廷に残る静けさ



公開されている第 600 法廷に入ると、そこには意外なほどの静けさがあります。

かつて世界が注目した裁判が行われた場所ですが、法廷の木のベンチに座ると、ここで世界の歴史が動いたとは思えない静かな空間でした。しかしこの場所で交わされた議論は、戦争犯罪や人道に対する罪という概念を世界に残しました。

第 600 法廷で流れる映像は、最後に「なぜニュルンベルクの理念は今も大切なのか。」と私達に問いかけてきます。その問いは、過去の歴史にだけでなく、今を生きる私たちにも向けられているのかもしれません。

●ニュルンベルク — City of Human Rights

今では展示会に世界中から人が集まり、穏やかで美しい街並みが広がるニュルンベルク。アドルフ・ヒトラーが演説をした場所では毎年欧州最大級のロックフェスティバルが開催され、ナチスの軍事パレードのために造られた道路では 24 時間自動車レースが行われるそうです。

しかし、この街にはもう一つの顔があります。権力の象徴と正義の象徴、その両方の歴史を刻む街です。

地元の方がニュルンベルク司法宮殿を出るとき、「ニュルンベルクは *City of Human Rights* であることを忘れないでね」と笑顔で語ってくれたことが、とても印象に残りました。

展示会で訪れる際、もし少し時間があれば、こうした歴史の場所を歩いてみるのも興味深い体験です。

この街を歩くと、ニュルンベルクという名前が持つ意味を、少し違った視点で感じることもできるのではないのでしょうか。

(記 岩口摩理子)